

## 会員の「ひ・ろ・ぼ」

### 誰か、助けて～！

今号からシルバー会員として広報誌「シルバーせいか」の発行に携わることになりましたのでひとことごあいさつ申し上げます。

精華町シルバー人材センターは設立当初から、会員との交流を深めるため広報誌「シルバーせいか」を発行してきました。

会員に親しんでもらえる広報誌を目指してきましたが、ついに「会員の手による制作」という妙案(?)を思いつかれたようです。「広報委員募集」というキャッチフレーズに、うかつにも「はまってしまった」のが愚かなこの私なのです。

そんなことになってしまった今の私の心境は、まさに「誰か、助けて～！」なのです。

実を言いますと、私にはものを書いたり広報誌を編集したりする素養などまったく



母谷章宣氏(馬淵)

持ち合わせていないので今は非常に後悔しているところです。このように無謀な私の深層心理を探ってみますと、小学校2、3年生頃同級生と一緒にした「文芸誌作成遊び」のことが思い出され、それが災いになったのかな～と思います。

不純にも、こんなきっかけで「シルバーせいか」の編集に関わった者ですが、会員の皆様にお役に立つ記事を充実していきたいと思っておりますので応援をよろしく願います。

また、ご意見や写真の投稿につきましてもあわせて応援をお願いします。(完)

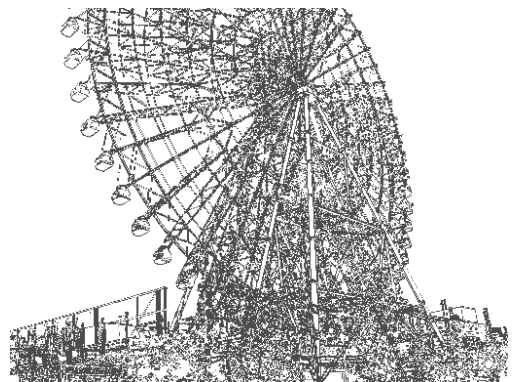
## 広報部だより

今回からの新生「シルバーせいか」編集に当って、新人編集者が考えたことを書いて見ます。

今年60歳になられる方は昭和20年生まれです。わが国の出生数は昭和22年から24年ころが一番多かったことから考えますと、シルバー人材対象者は再来年あたりから急増するかもしれません。そのような時期を迎えて「自主・自立、共働・共助」という基本理念のもと、人材の有効活用という観点からも、シルバー人材センターの役割はいやおうなく高まってくるに違いありません。

そのためには、私たち各々がシルバー人材センター事業に対する関心を高めるとともに、「自主・自立」の気持ちを高めていきたいものです。

そこでまず、私自身今まであまり関心がなかったシルバー人材センターの仕事、「こんな仕事を引き受けています」という欄を毎掲載せたいと思いました。日頃からそれをよく知っていたら、私(会員)自身がそれを利用することがあるかも知れませんよ



それに仲間の会員皆様が何人登録されていて、平素どんな仕事で活躍されているのか知りたいですね。

いままでの私のように無関心、傍観者ではなく一人でも多くの方にシルバー人材センターの事業に関心をよせていただけた一助になりたいなという気持ちで今回の編集に臨んだ次第です。どうぞご支援くださいますようお願いいたします。